

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370426

研究課題名(和文)メディア横断的物語更新理論を応用した現代表象文化の受容形態の解明

研究課題名(英文) Toward an Advanced Cultural Theory of Narrative Renewal Based on the Media-Conscious Idea of Storyworld

研究代表者

片渕 悦久 (KATAFUCHI, NOBUHISA)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30278147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：多様なメディアやジャンルの枠を越え、同一のストーリーをもつ作品が何度も再生産されるという現代表象文化の顕著な現象およびその特質を解明するために、「ストーリーワールド」の継承と共有という観点からアプローチする「物語更新理論」を提案し、その理論的発展性について検討した。また物語更新理論をつづじて、メディアの変換にともない物語が再創造される原理やその形態、さらには更新された物語の受容の問題を考察することに焦点を絞った考察のあり方を方法論として体系化し、新たな物語論の発展可能性を提案した。

研究成果の概要(英文)：This joint research project has aimed at establishing a theoretical foundation of narrative renewal, a concept I and my co-researchers draw upon to express various aspects and principles of the process in which certain stories are recreated by narrative recipients-creators to different types of narrative manifestations in various media and genres. By shedding a new cultural light on the the concept of "storyworlds" created in the recipient-creator's mind, we have investigated several instances of narrative renewal and have so far established a more advanced working model of narrative renewal theory.

研究分野：人文学

キーワード：物語更新 アダプテーション 物語論 ストーリーワールド

1. 研究開始当初の背景

本研究課題は、a)「アダプテーション理論にもとづいた物語のメディア横断性の研究」(挑戦的萌芽研究=平成20~22年度)、およびb)「アダプテーション理論を発展させたメディア横断的物語更新理論の構築」(基盤研究(C)=平成23~25年度)の研究成果を土台にして、理論的検証と文化事象への応用的展開をめざすものとして出発した。

上記2つの先行研究課題において研究遂行者たちは、さまざまなメディアやジャンルにおいて実践されている物語の作り直しの現象を詳細に観察すると同時に、そのような現象を解読するために必要な各種理論を学んできた。a)では、文学作品の映画化を主に扱った初期のアダプテーション(翻案)理論(adaptation theory)と、それを修正発展させた最新の理論の可能性について研究した。初期のアダプテーション理論においては、原作の小説に対して映画版は従属的で劣化した亜流であるという考えから解放されていない傾向が見られたが、たとえば Linda Hutcheon の *A Theory of Adaptation* のような最近の理論では、翻案の過程に着目し、アダプテーション作品をメディアに最適化された自立的作品ととらえ、翻案元テキストと(再)創造された翻案テキストとの対等な比較研究への道を開いている。このような理論的展開を援用することで、多様なメディアで繰り返し再現される「物語」のありようを「更新」という概念でとらえられないか検討し、一定の成果を得た。

a)での成果を土台として、b)では構造主義物語論以降に、多メディア的物語分析に対応し発展してきたトランスメディア物語論(transmedial narratology)や、とりわけ2000年代以降、自然科学や社会科学のいくつかの分野、たとえば認知科学、メディア理論などを取り込み、多面的に発展を遂げてきた新展開の物語論、伝統的な構造主義物語論を

classical に対して、それを学際的知見を取り入れながら発展継承する postclassical narratology と呼称される最新の物語論の動向について研究した。そして、こうした物語論の新たな展開に寄与することをもくろみ、これまでのアダプテーション理論と新たな物語論とを融合させた文化研究的物語分析理論として、「物語更新理論」を仮説的に提案した。

物語更新論とは、メディアやジャンルの変換を経て[再]創造された物語を分析対象として、変換原理や法則性、物語受容の仕組みなどの点から、物語が作り変えを体系化する理論である。物語が作り直される現象を「更新」としてとらえることで、異なるメディアで実現された物語の変化の過程とそこに観察される相互作用とを同時に視野に入れ、さらには「語りの焦点」や「仮想された作者の意図」という新たな物語論的項目を設定することで、新規性と継続性とを包含した物語論の動的ありようを可視化して説明できるようになった。そこからさらに「対等な比較研究」をさらに多様化し、従属しつつ転覆(立場の逆転)をもくろむ関係なども分析的に扱う可能性を示しうることが期待できるだろう。

先行する研究課題での、このような理論的基盤の上に、本課題は物語更新理論の精緻化と同時に実践的応用をもまためざした。

2. 研究の目的

多様なメディアやジャンルの枠を越え、同一のストーリーをもつ作品が何度も再生産されるという、現代表象文化においていっそう顕著となっている特質を文化現象として解明するために、本研究課題では、メディア横断的な物語の作り変えを、あくまでメディア・コンシャスな「更新」ととらえ、そうした観点からアプローチする物語更新理論を提案し、その理論的発展性を検討することを大きな目標とした。物語更新理論をつうじて、メディアの変換を経て物語が再創造される

原理やその形態、また更新された物語に関する受容のあり方などを考察することに焦点を絞ったうえで方法論として体系化し、新たな物語論として確立することを最終的な研究成果に定めた。

3. 研究の方法

これまで計6年間継続してきた2つの共同研究課題において提案した、アダプテーション理論と物語論を統合発展させたメディア横断的物語論を考察の土台とし、その応用をめざす。とくに本研究課題では、当該研究分野の最新の動向をふまえながら、多様なメディアやジャンルをつうじて展開される物語更新の現象を観察する。なかでも物語内容面でのテーマの踏襲や変化、また物語表現にかかわる活字メディア、映像メディア、パフォーマンス・メディアなどの関与形態の変化、あるいは物語更新に付随する文化や言語の差異による変化、さらには物語更新が実践される時代や地域政治、経済的状況、物語更新の主体者のさまざまな属性を(職業/国籍/宗教/男女/世代なども含め)考慮し、具体的な作品分析を進める。そこから得られた結果から、物語更新のプロセスにみられる共通パターンを構造的に可視化させることを主要な研究方法とした。

4. 研究成果

平成26年度には、これまでも参照してきたアダプテーション研究や物語論の最新動向について目を配りながら、物語更新論の独創的研究方法を展開されるための具体的な検討を行った。とくに、物語更新の構造モデルの構築を用いた、複数のジャンルやメディアの物語テキストや批評書を取り上げ、それらについて検討を加えた。

初年度の研究成果のうち特筆すべきものは、研究代表者片渕の論文「アダプテーション、リメイク、リニューアル 物語更新理論の構築に向けて」、および研究分担者鴨川の

「*Life of Pi*における物語生存戦略 Yan Martelの小説から映画版へ」である。また研究発表としては、片渕、鴨川、武田(研究協力者)によるシンポジウム「アダプテーション理論の現在と物語更新論の可能性」があげられる。

平成27年度は、研究対象の範囲を明確化することともに、対象となる物語テキストの物語更新にかかわる共通要素と相違点とをあわせて見出すことを目標に、必要な先行研究等の資料の収集と分析を進めた。さらには、研究対象として選択した物語テキストを観察・分析し、それにもとづいた研究発表を行い、また研究論文の原稿を執筆した。物語更新プロセスの構造モデルの構想についても作業を開始した。

2年目の研究成果のうちもっとも重要なものは、片渕の『物語更新論入門』である。これは、片渕がこれまで本研究課題および先行する2つの研究課題をつうじて発表してきたシンポジウム原稿や講演原稿等を再構成したものである。その内容は、物語の定義から物語論の歴史と現在、物語更新の概念的説明を土台として、物語更新理論の実践までを解説する啓蒙的理論書となっている。

他の研究分担者も、アダプテーション理論、比較文学、ジェンダー研究等の分野で、各研究領域と物語更新理論の接続可能性をにらみながら、研究発表や論文執筆の準備を遂行した。これらの成果のうち特筆すべきものは、物語の反復再現をアダプテーションおよび物語更新の観点から解明した鴨川の単著『グレアム・グリーンの小説と物語の繰り返し』である。

研究最終年度である平成28年度においては、過去2年間の研究の積み重ねから得られた成果の内容を総括し、トランスメディア物語論およびアダプテーション理論を統合する物語更新理論の新たな理論的展開の可能性について検討を重ね、一定の成果を得た。

具体的には、物語更新理論を活用した作品分析からなる研究発表(研究分担者鴨川)、物語更新理論についての講演(研究代表者片瀨)があげられる。研究論文としては、原作とアダプテーションの関係にない2つの物語が、作中ともに共有するカバー曲によって更新関係で結ばれることを解明した研究(片瀨)、『ハムレット』が時代を経て物語的にアップデートされる過程をたどった考察(鴨川)、またアダプテーション理論から物語更新理論への理論的変遷をまとめた新たな物語論の地平をとらえた論文(研究協力者武田)を研究成果としてあげたい。さらに著書としては、片瀨が最新の研究成果を盛り込んだ『物語更新論入門(改訂版)』を上梓したことを付け加えておきたい。

これら3年間の研究成果全体をつうじて、物語更新という現象に、物語の受容と創造には「ストーリーワールド」の内的形成が重要な役割を果たすという知見が得られた。物語更新の過程において、こうしたストーリーワールドおよびそれを具現化したメンタル・イメージの形成が果たす具体的役割については、さらなる研究の深化が求められる。これについては、新年度からの新規課題において、さらに考察を加えていく予定である。

なお、研究代表者片瀨、研究分担者鴨川。および研究協力者武田が共同して執筆中の、物語更新理論の確立と深化をめざす共著論文(英語)については、平成28年度中に英語校閲を終えたところである。現時点では当該論文の最終的な完成には至っていないが、新研究課題のもとで、引き続き作業を継続し、最終的には物語更新理論の国際的訴求力を高めることをめざし、外国の物語論関連の専門学会誌(*Storyworlds: A Journal of Narrative Studies* 等)への投稿を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

- (1) 片瀨悦久、「カバー曲とストーリーワー

ルドの継承/共有 『ワイキキの結婚』から『ブルー・ハワイへ』、『関西レビュー』、査読なし、第34号、2017、21-33

- (2) 鴨川啓信、「Hamlet Updated 舞台変更による物語更新について」、『関西レビュー』、査読なし、第34号、2017、47-56
- (3) 武田雅史、「アダプテーション研究の変遷 物語更新に向けて」、『関西レビュー』 査読なし 第34号 2017年 pp.34-46

〔学会発表〕(計3件)

- (1) 片瀨悦久、鴨川啓信、武田雅史、「アダプテーション理論の現在と物語更新論の可能性」、『阪大英文学会、第47回大会シンポジウム、2014年10月18日、大阪大学
- (2) 片瀨悦久、「物語更新とは何か? メンタル・イメージの物語論」、『静岡文化芸術大学公開特別講演会(招待講演)、2016年2月1日、静岡文化芸術大学
- (3) 鴨川啓信、「舞台変更による物語更新 古典的物語の事例と現代の物語の事例について」、『関西英語英米文学会例会、2016年7月16日、関西外国語大学

〔図書〕(計3件)

- (1) 鴨川啓信、『グレアム・グリーンの小説と物語の繰り返し』、英宝社、2016、214
- (2) 片瀨悦久、『物語更新論入門』、学術研究出版/ブックウェイ、2016、78
- (3) 片瀨悦久、『物語更新論入門(改訂版)』、学術研究出版/ブックウェイ、2017、100

〔その他〕

ホームページ

「物語研究ネットワーク」

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~narrative>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片瀨 悦久 (KATAFUCHI NOBUHISA)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号: 30278147

(2) 研究分担者

鴨川 啓信 (KAMOGAWA HIRONOBU)
山口大学・経済学部・教授
研究者番号: 60314788

橋本 安央 (HASHIMOTO YASUNAKA)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号: 60300274

飯田 未希 (IIDA MIKI)
立命館大学・政策科学部・准教授
研究者番号：90572438

小久保 潤子 (KOKUBO JUNKO)
大妻女子大学・短期大学部・助教
研究者番号：50441522
(平成 27 年逝去により削除)

(3)研究協力者

武田 雅史 (TAKEDA MASAFUMI)
大阪大学・全学教育推進機構・非常勤
講師